

## 第16回栃事研セミナー レポート

平成30年12月18日(火)、第16回栃事研セミナーを開催しました。8月に開催予定でしたが、台風の影響により12月に延期となりました。支部推薦者及び希望者、若年層からリーダーとして活躍するベテランまで39名が参加しました。

栃事研では、中期研究計画に基づき年次別課題を設定し、それに沿った研修を年間通して行っています。今年度は「学校と地域をつなぐ協働体制づくり」をテーマとして、研修を企画しました。本研修では、栃木県の地域連携について学ぶとともに、勤務校や地域を取り巻く環境を振り返りながら、意見交換を通して学校や事務職員の在り方、またリーダーの役割について考えました。



午前は、栃木県教育委員会生涯学習課主幹の平野紀子氏をお迎えし、「栃木県の地域連携について～地域とともにある学校づくりにむけて～」と題して講義を行いました。校長として勤務した経験を基に、学校の実情も踏まえて分かりやすく説明してくださいました。まず、栃木県の地域連携の特色について説明がありました。栃木県では現職教員の社会教育主事有資格者を計画的に養成しており、全公立学校に「地域連携教員」を地域連携に携わる

教員として設置しています。地域連携教員はプランナー(企画者)、コーディネーター(調整者)、アドバイザー(助言者)として活動を支援していき、地域と学校がお互いに力を出し合うことを目指します。地域連携活動を手段として、学校や地域の課題解決・新たな地域コミュニティづくりへつなげていくことが期待されます。また、教育改革の動向や、地域とともにある学校づくりのために何をすべきかについての講義がありました。その中で、事務職員が学校のチーム体制の確立、連絡調整、校内コーディネーターなどに関わっている事例の紹介がありました。事務職員は地域との連携・協働のさらなる推進へ向けて、自分の強みを生かし、つながりをつくるキーパーソンとして活躍してほしいとの話がありました。

午後は、地域連携の一つの事例として、宇都宮市小規模特認校制度の立ち上げと継続するための活動に関わってきた、宇都宮市立一条中学校 事務長 樋口良広氏、宇都宮市立陽南中学校 事務長 廣瀬真美氏の体験発表がありました。平成17年度に宇都宮市立城山西小学校と宇都宮市立清原北小学校が、児童数減少によって小規模特認校に指定されました。全学級が複式学級になるほど児童が少なく、5年間で解消できなければ統廃合の危機でしたが、様々



な努力と特色を生かした取組により複式学級は解消され、現在では両校とも当時の3倍近い児童が通学しています。保護者に選ばれる魅力ある学校を作るため、会話科（英会話・ことばの時間）の実施、地元企業と連携したサマースクール、地域共催の祭りや運動会などの特色ある取組を展開しています。当時、勤務されていたお2人が、複式学級の解消を実現し一時的では無く、児童数を維持していくために、事務職員としてどのように関わっていったかを説明してくださいました。学校と地域がチームとして一体になって連携し協働体制を作り上げていく中で、事務職員も組織マネジメント力を発揮し学校経営に参画してきたこと、各事業を進めるにあたり、学校総予算を念頭に置いた財務マネジメントを展開することで、組織運営が活性化するとともに教育活動が充実し、効果を2倍3倍に上げることができたというお話がありました。



午後の後半は、グループ討議を行いました。討議の前半は、事前課題で考えてきたことや講義・体験発表を聞いて気付いたことなどを踏まえて、自分の勤務校や地域を振り返り、学校と地域のつながりの在り方や、自分がどのような関わりをもつことができるか（もちたいか）、また、取組における課題について話し合いました。事前課題では、勤務校の地域の特色、学校が地域と関わっている活動、地域連携の中で事務職員として

関わっていることについて書き出してきたので、グループ内でそれぞれの学校や地域の取組を聞くことができ、情報交換の場としても有効でした。

討議の後半は、前半の討議で若年層から出た、事務職員として地域連携で「こんなことをしてみたい」「こんなことができるのではないか」という意見を、リーダー層に提示しました。これらをふまえ、地域と学校の協働体制の活性化を図るために、事務職員のつながり（共同実施）が機能することで何ができるか、また、チームリーダーはどう組織を牽引するべきか話し合いました。

最後にグループで話し合った内容を発表しました。若年層のグループでは学校と地域をつなぐ窓口として信頼関係を築くためのコミュニケーション力を高めたい、ミドル層のグループでは学校の活性化を図るために、学業指導以外は事務職員が関われるチャンスはたくさんあるのでそれを見逃さないようにしたい、という意見がでました。リーダー層のグループからは、リーダーとして校内外の体制づくりと連携、若手育成のための支援と経験の伝承を行っていく、という発表がありました。



参加者からは、「学校と地域が一体となり、子どもも育みながら大人も学べるような、地域ぐるみの人づくりが進められたら素敵ですね。」「行動を起こしたい。」といった前向きな感想が多く寄せられました。本研修で学んだことや感じたことを、学校や地域に持ちかえり様々な人と話し合うことで、学校と地域を結ぶ協働体制づくりに踏み出してほしいと思います。